

「首都直下地震に向けた帰宅困難者対策の在り方」

荒木 夏衣

要旨

2011年3月11日 東日本大震災において関東圏では公共交通機関の停止に伴い数多くの帰宅困難者が発生した。当時、帰宅者自身が集団雪崩や建物の損傷によって被害を受ける、大量の徒歩帰宅者の発生により道が渋滞し救助・救援活動が阻害されるといった二次災害を引き起こすケースが発生した。大量の徒歩帰宅者の存在は来るべき首都直下地震の際に再度同様、それ以上の二次被害を引き起こす可能性もあり、対策の必要性は大きいと考えた。本研究では、東日本大震災における市区町村・首都圏駅・民間企業による帰宅困難者への対応を調査した既存のデータ、現在の帰宅困難者対策についてアンケート調査を実施し、分析を行った。そこから得た事実に沿って、現代において効果的だと考える首都直下地震に向けた帰宅困難者対策を提案するものである。